6　芸術（音楽）

学校番号	3020

令和２年度　芸術〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校音楽Ⅰ「Music View」　（教育出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歌うこと」を軸に「音楽を聴くこと」「楽器を演奏すること」「音楽を作ること」の４分野を年間で勉強し、演奏会に向けて自分たちで企画を行います。
・学習の到達度は、授業で配付するワークシートや実技テストで評価します。
・仲間と常にさらに良い演奏をめざして真剣に取り組むことで、より音楽の喜び・楽しみや協力して一つの作品を作り上げる達成感を感じることができます。
・音楽が、生涯みなさんの心の支えとなり、生きていく力となることを願い、音楽の幅を広げて楽しむことができるようにしていきたいと考えています。

2　学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
主たる評価方法	観察 ワークシート	観察 ワークシート	演奏の聴取 提出作品	観察 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			A	b	c	d		
1学期	斉唱と混声四部合唱の響きの違いを味わおう	【歌唱】 ●「校歌」 ●「Caro mio ben」 ●Jhon Rutter 作曲「Gloria」1楽章	○	○	○		a:歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように歌うか、表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	鑑賞のファーストステップ～管弦楽と合唱の響き～	【鑑賞】 「Gloria」 全楽章	○			○	a:管弦楽で扱われる楽器の音色や旋律、リズムの特徴と表現上の効果と合唱の響きの関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 d:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。	観察 ワークシート
2学期	演奏会の企画をしよう①～クラス発表の企画・練習、全体合唱の練習～	【歌唱・器楽】 ●クラス演奏曲 ・課題曲1曲 ・自由曲1曲 ［歌唱・器楽より選択］ ●全体合唱 「Gloria」	○	○	○		a:クラス合唱曲の選曲に関心を持って取り組もうとしている。また、楽曲の背景との関わりに関心をもち、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b:楽曲のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、どのように歌うかについて表現意図を持ってパート練習や全体練習に取り組むことができている。 c:曲想を歌詞や楽曲の背景と関わらせて、イメージをもって音楽表現するために必要な発声、発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付けている。	観察 ワークシート 演奏の聴取

	民謡と日本の音階 ～日本の音階の特徴を感じ取ろう～	【鑑賞】 ソーラン節 江差追分 八木節 こきりこ節 谷茶前	○			○	a:我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴に関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 d:音楽を形づくっている要素を知覚、感受しながら、我が国や郷土の民謡とそれぞれの特徴について理解を深め、それぞれのよさや美しさを創造的に味わって聴いている。	観察 ワークシート
2学期	器楽合奏をしよう ～リコーダー四重奏の響き～	【器楽】 リコーダー アンサンブル	○	○	○		a:リコーダーアンサンブルの響きを味わい、イメージをもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、楽曲の内容と関わらせてどのように演奏するか、表現意図をもっている。 c:リコーダーの運指を覚え、演奏の技能を身に付け、楽曲の雰囲気を感じ取って演奏をすることができている。	
	和楽器の響き ～箏演奏を体験～	箏 「さくら」	○	○	○		a:箏の響きを味わい、奏法を学ぼうと主体的に演奏に取り組むことができる。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら楽曲のイメージを持って、それに合う音を鳴らすよう表現意図をもっている。 c:箏の基本的な奏法を身につけ、和楽器の響きを感じながら演奏している。	観察

3学期	演奏会の企画をしよう② ～舞台演出、仕上げ、発表　振り返り～	【歌唱・器楽・鑑賞】 dクラス演奏曲 ・課題曲 ・演奏曲 全体合唱曲 Jhon Rutter 作曲 「Gloria」1楽章	○	○	○	○	a:歌う喜びを味わい、イメージをもって歌う学習に主体的に取り組み、発表に向けてさらによい演奏をめざして意見を出し合いながら練習に取り組むことができている。 b:音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように歌うか、表現意図をもっている。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付け、それを生かした演奏をすることができている。 D：他のクラスなどの発表をそれぞれのよさや演出の工夫を創造的に味わって鑑賞している。	観察 ワークシート 演奏の聴取

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　　b:音楽表現の創意工夫
　　c:音楽表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の３観点で、「鑑賞」の分野は a, d の２観点で評価をする。

※　年間を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。